

DSC 機能付いた 25W トランシーバの操作ができる

第 2 級海上特殊無線技士

の免許を取得しましょう。

JSAF 外洋三崎主催レースは基本的に VHF を使ったロールコールを行いますので、各艇に国際 VHF（以下 VHF）トランシーバの設置をお願いします。

FAQ

Q ヨットに VHF トランシーバを搭載するメリットは？

A JSAF 外洋三崎主催のヨットレースでは、VHF で行うロールコールを基本とします。この VHF でロールコールに実施することにより携帯電話で行う場合と比べてレース中の他船の動向を知ることができ、各艇が全体のレース展開を把握しながらレースを行うことができます。また、本船と共通な通信システムであり、安全航行のためにも是非ともヨットに搭載しましょう。

Q 5W ハンディタイプと 25W 据置型 VHF トランシーバはどちらがお勧め？

A JSAF 外洋特別規定 2014-2015 モノハルカテゴリー3 では 25W、DSC 機能付のトランシーバと防水タイプまたは防水カバーを付けたハンディタイプの VHF トランシーバーの両方を設置することが規定されています。モノハルカテゴリー4 ではハンディ型のみ設置について規定されています。

Q 25W 据置型トランシーバと 5W ハンディタイプ VHF トランシーバの電波の到達距離の違いは？

F 条件によって異なりますが 25W 機でおおよそ 10 海里、5W ハンディタイプで 3 海里程度です。

Q 5w ハンディタイプ、25W 据置型 VHF トランシーバを操作するために必要な資格は？

A VHF トランシーバを操作するために必要な資格は以下のようになっています。

	25w DSC 据置型	5w DSC ハンディ	5w ハンディ	国際 通信
第 1 海上特殊無線技士(海特 1)	○	○	○	○
第 2 海上特殊無線技士(海特 2)	○	○	○	×
第 3 海上特殊無線技士(海特 3)	×	×	○	×

Q 無線従事者免許を取得する方法は？

F 国家試験を受験する方法と、認定講習会を受講し修了する方法があります。費用は以下の通りです。

国家試験を受験する方法

	試験時期	試験科目				受験料
		工学	法規	英語	通信術	
海特 1	2,6,10 月	○	○	○	○	¥6,552
海特 2	2,6,10 月	○	○			¥5,152
海特 3	2,6,10 月	○	○			¥5,152

養成講習会を受講する方法

	実施時期	受講料（参考） （日本無線協会主催の料金）	その他
海特 1	主催者による	¥78,430	
		¥55,426	英語免除要件あり
海特 2	主催者による	¥40,630	外洋三崎主催→¥26,000
		¥32,854	短縮コース(海特 3 保有者)
海特 3	主催者による	¥21,190	

JSAF 外洋三崎では 2016 年 2 月 20 日（土）～21 日(日)の 2 日間、東京五反田を会場として第 2 級海上特殊無線技士の資格が取得できる講習会（国家試験免除）を開催します。（海特 3 保有者対象の短縮コースではありません）

受講料は他の機関が実施する講習会に比べて格安ですのでこの機会に是非とも参加願います。

JSAF 外洋三崎会員 ¥26,000

JSAF 外洋会員、日本学生外洋帆走連盟会員 ¥28,000

JSAF 会員 ¥31,000

その他 ¥36,000

詳しくは <http://jsaf.or.jp/misaki/>

Q VHF トランシーバーをヨットに開局するための手続きは？

A 無線従事者免許だけでは VHF トランシーバ運用することはできません。必ずヨットに無線局（特定船舶局または船舶局）を開局してください。

トランシーバーを購入すると開局申請書が同梱されていますので、必要事項を記入し手数料（収入印紙）を添付して管轄の総合通信管理局に提出します。

また、申請時には JSAF の海岸局である“ミサキヨット”に加入してください。

71Ch と 74Ch の割り当を受けることができます。

海岸局加入証明書発行申請書は外洋三崎 HP からダウンロードできます。

開局が承認されるとあなたのヨット固有の※MMSI 番号が記述された免許状が送付されてきますので、船内に保管してください。

※ MMSI (Maritime Mobile Service Identity) 海上移動業務識別コードとは DSC 通信装置を搭載した船舶・地上局に認識番号として交付される 9 桁の数字

Q DSC (Digital Selective Calling) デジタル選択呼出しとは？

A ボタン 1 つを押すだけで自船の位置、MMSI 番号と共に遭難通信のための呼び出しが行えます。また、MMSI 番号を使って他船を個別に呼び出せます。

Q 無線従事者はヨットに一人乗っていれば良い？

A VHF トランシーバを操作する全員 (無線従事者免許保有者) を選任し総務省に届ける必要があります。選任した無線従事者以外はその無線局のトランシーバを操作することができません。

※ 無線従事者免許を保有しないクルーが VHF トランシーバの操作を行おうとする場合には、主任無線従事者を選任しその管理下において操作を行うことができます。

Q 25W 据置型の VHF トランシーバのヨットへの設置は素人でも可能ですか？

A 特別な知識は必要ありません。アンテナから同軸ケーブル及び電源線をトランシーバに配線します。また DSC 機能を使うために GPS 内臓の VHF トランシーバー以外については既存の GPS 信号を VHF トランシーバに入力できるように配線します。何れも、購入した VHF トランシーバのマニュアルに詳しく記載されています。

Q アンテナをマストトップに設置することは困難です。

A トランシーバが使用する VHF (Very High Frequency) は、基本的に見通し距離の範囲でしか通信ができません。そのため、アンテナはできるだけ高い位置に設置することをお勧めしますが、マストトップの設置が困難な場合には、アフトバルピットに設置することも一考です。しかしながら、アンテナの高さが 2m の場合と 15m の場合では見通し距離は 3 倍違います。

Q VHF トランシーバの他に今後設置を推奨する航海機器は？

A DSC 機能付きのトランシーバの他 AIS CLASS-B の設置をお勧めします。AIS (Auto Identity System) は VHF の周波数を使って自船の GPS 位置、進路、船名等を発信し、その情報を付近船舶のチャートプロッター上の表示、アラームを設定するものです。500 トン以下の内航船に搭載義務はありませんが、その安全性の高さから多くの船に普及しています。CLASS-B はプレジャーボート等の小型船のために設定された規格で機器の価格も安く、また JSAF 外洋特別規定 2014-2015 モノハルカテゴリー3 においても搭載を推奨しています。

なお、AIS の操作には無線従事者免許証は必要ありませんが、無線局免許申請は必要です。